庄司紗矢香Sayaka Shoji

ヴァイオリン

庄司紗矢香はその才能、卓越した技術とコンサートでのスタミナで国際的に評価されている。プロコフィエフ、チャイコフスキー、ブラームス、シベリウス、ショスタコーヴィチらの名作に加え、新作も演奏し、幅広いレパートリーを持っている。

庄司は、ユーリ・テミルカーノフ、ズービン・メータ、ジャナンドレア・ノセダ、マリス・ヤンソンス、パーヴォ・ヤルヴィ、ヴラディーミル・アシュケナージ、オスモ・ヴァンスカなどのトップレベルの指揮者や、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、マリインスキー劇場管弦楽団、NHK交響楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団といった世界を代表するオーケストラと共演を重ねている。

2019/20年シーズンのハイライトに、アシュケナージ指揮、フィルハーモニア管弦楽団とのイギリスツアーがある。また、エサ＝ペッカ・サロネン指揮フィルハーモニア管との日本ツアーや、クリーブランド管弦楽団デビュー、アルスター管弦楽団との共演の他、ユーリ・テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団のシーズンズ・クロージングコンサートでチャイコフスキーのヴァイオリン・コンチェルトを演奏するため、サンクトペテルブルクを再訪する。

ジャンルを超えた芸術プロジェクトにも参加しており、今シーズンは日本で勅使川原三郎と音楽とダンスのコラボレーションを行う。又2007年より音楽を視覚的に表現する実験的な視覚芸術プロジェクト「Synesthesia（共感覚）」も行なっており、自身の映像作品を上映しながらのリサイタルを4月にパリで行う。

リサイタルではジャンルカ・カシオーリとベートーベンのピアノとヴァイオリンのソナタ全集を録音した。今シーズンはニコラ・アニゲリッシュとモディリアーニ弦楽四重奏団と共に室内楽のコンサートを行い、ヴィキングル・オラフソンとのウィグモア・ホールを含むツアーも予定されている。

昨シーズンには、長年の共演者であるユーリ・テミルカーノフと共にサンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団とイタリアへのツアーを行い、ローマのパルコ・デッラ・ムジカでも３日間の公演を行なった。彼らは2001年以来サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、ロンドン交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ボルティモア交響楽団などと共にヨーロッパ、日本、南米、ロシア、アメリカで幅広くツアーを行っている。

テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団との共演でシベリウスとベートーベンのヴァイオリン・コンチェルトを収録したアルバムをはじめ、ドイツ・グラモフォンからこれまでに多くのアルバムをリリースしている。また、佐渡裕指揮トーンキュンストラー管弦楽団と共にウィーン楽友協会で2018年にライブ録音されたバーンスタインのセレナーデもリリースされた。このほかにも、メナヘム・プレスラーとの共演でモーツァルト、シューベルト、ブラームスのソナタをライブ録音しリリースしている。

庄司はシエナとケルンで学び、1999年にパガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで最年少および日本人として初めて優勝した。2010年芸術選奨新人賞、2016年毎日芸術賞を受賞。使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された1729年製ストラディヴァリウス“レカミエ(Recamier)”である。



/[SayakaShoji](https://twitter.com/SayakaShoji)

[/](https://www.facebook.com/pages/Sayaka-Shoji/127240830686056)SayakaShojiOfficial